

聖別 神にすべての情愛を明け渡す1

人の感覚は広範囲で混み合っているため
これを理解するために感情の現れを3つに
分けます。

これらの3つのグループは、感覚の機能の
3つの局面を表します。

もし、クリスチャンがこの3つを治めること
が出来るなら、純粋な方法で霊的な命へと
入ることができます。

1. 情愛
2. 願望
3. 感覚

情愛（じょうあい）とは、愛情と言う
言葉を逆さにしたもので、同じ文字ですが、
ニュアンスには大きな違いがあるようです。
愛情とは、相手に注ぐ愛の気持ちであり、
また、深く愛する暖かな心も意味します。
ある意味、愛は自分の気持ちが優先されるため
自分よがりな愛を子供に注いだり、夫や妻
に注いだりすると、歪んだものになるケースが
あります。

昨今、しつけと言って、暴力、殺人に至って
しまったり、最悪な事件の事を耳にします。

一方、情愛は、なさけ、いつくしみといった
意味合いが強いようです。

情愛と愛情の違いは、情が先か、愛が先かと
いうことでのニュアンスの違いです。

情愛は、慈しむ前に、情けの心、思いやりの
心が先行します。少し、愛情が意味するものよりも、
相手を客観的にみるものです。

1. 情愛

主にすべての情愛を明け渡すことは
クリスチャンにとって、最も困難な
ことのように思われます。

しかし、神は私達の情愛が、すべて神に明け渡されることに、何よりも大きな関心を持っています。神は、私達の情愛の主ともなるために私達が、情愛をすべて明け渡すことを要求します。神は、私達の情愛の第1位になることを要求するのです。

・ローマ人への手紙 12章1～2節
そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきま知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

・ペテロの手紙 第一 2章5～9節
あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった」のであって、「つまずきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に

招いてくださった方のすばらしいみわざを、
あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

・ヘブル人への手紙 13章13～15節
ですから、私たちは、キリストのはずかしめを
身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうで
はありませんか。
私たちは、この地上に永遠の都を持っているの
ではなく、むしろ後に来ようとしている都を
求めているのです。
ですから、私たちはキリストを通して、賛美
のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの
果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

私達は、聖別について語るのをよく聞きます。
しかし、聖別は私達を霊的に至らせる始まり
なのです。
聖別なくして霊的命は、あり得ません。
私達の情愛のすべてを神に捧げる時
その事が、私達の聖別が真実であるかどうか
決定します。
私達の時間、お金、力などを捧げることは
比較的簡単な事です。
しかしながら、私達の情愛を捧げることは
極めて困難な事なのです。
このように言うのは、イエス様を愛していない
と、言ってるのでありません。
私達クリスチャンは、イエス様をととも愛して
いるでしょう。
例えば、私達の情愛の第一位を他の人に与えて
イエス様が第二位となっていたり
あるいはイエス様と同じくらいに誰かを愛したり
または、自分の情愛を自分で支配しているなら
私達が捧げるものは完全な聖別とは、みなされ
ません。
何故なら、私達の情愛が完全に捧げられていない
からです。
父なる神は、イエス様を絶対的な愛をもって
愛するように命じています。
神は、あなたの心を誰かや、何かと共有する
ことを望みません。
例え、その大部分を神に捧げられていたと

しても、神にとって十分ではないのです。
神は、私達の愛すべてを求めます。
私達をつなぎとめようとする全てのものから
離れるように、主は命じます。
それは、これらのものが、私達の心を二分
してしまうからです。
私達が、イエス様を完全に愛し、絶対的な
愛をもって従うことを求めます。
そのことは、私達があらゆる様々な危険から
守られる秘訣なのです。
神は、私達人の性質、弱さを私達以上に
よく知り尽くしているので、人が独りよがり
に生きることが、どれほど危険であるのか、道
を正しく歩めないことをご存知です。
神に全てを捧げて生きる事で、正しく、守られ、
平安で生きることが最善であることを
教えているのです。

・マタイの福音書 22章37節
そこで、イエスは彼に言われた。
「『心を尽くし、思いを尽くし、
知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』」

ここでの「尽くして」という言葉は
最後の一滴まで主のためにならなくては
ならないことを説明しています。
ほんのわずかでも主に捧げていない
情愛があり、それを私達自分自身のものに
することを神は願いません。
神は全てを求めるのです。

では、神が私達がどのように彼を愛する
ことを願うでしょうか。

・申命記 6章5節
心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、
あなたの神、主を愛しなさい。

・申命記 10章12節
イスラエルよ。今、あなたの神、主が、
あなたに求めておられることは何か。
それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、
主のすべての道に歩み、主を愛し、

心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、
主に仕え、

・箴言 8章17節

わたしを愛する者を、わたしは愛する。
わたしを熱心に捜す者は、わたしを見つける。

・ヨハネの福音書 14章15節

もしあなたがたがわたしを愛するなら、
あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

テサロニケ人への手紙 第二 3章5節
どうか、主があなたがたの心を導いて、
神の愛とキリストの忍耐とを持た
せてくださいますように。

・ユダの手紙 1章21節

神の愛のうちに自分自身を保ち、
永遠のいのちに至らせる、
私たちの主イエス・キリストの
あわれみを待ち望みなさい。

Fruit Ministry